

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400680		
法人名	有限会社ルーツ		
事業所名	グループホーム泉の里		
所在地	青森県北津軽郡中泊町今泉字神山141		
自己評価作成日	平成25年10月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成25年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わり、繋がりを大切にしており、地域イベントには積極的に参加しています。事業所の夏祭りは特徴を活かしたものとなり、毎年新しい事に挑戦しています。グループホームの枠を超え、地域の行事として根付いてきました。毎日の献立は、入居者の希望を取り入れながら常に見直しを行う事で楽しみになって頂けるように工夫しています。天然かけ流しの温泉入浴も身体と心を癒してくれます。職員は日々目標を持つことで、向上意欲を高め、一人ひとりに寄り添ったケアを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームは敷地面積が広く、庭木や花が植えられているため四季を楽しむことができる環境にある。ホーム内は採光が考慮された造りになっており明るく、不快な臭いを除去する光触媒を使用するなど、居心地よく生活できる環境が整っている。ホールは広く、観葉植物や水槽などが設置されており、家庭的な雰囲気が感じられる。温度・湿度の管理及びホーム内の清掃も徹底され、過ごしやすい環境づくりがなされている。代表者は看護師・栄養士の資格を所持しており、特に食事に対しては楽しみの一つとして重点的に取り組まれている。管理者・職員は、チームワークを重点に、寄り添うケアの実践に向けて取り組んでおり、また、運営理念を常に思い返しなが職員一丸となって業務に取り組まれている。職員は終始笑顔を保ち業務に取り組まれている明るいホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

公益社団法人青森県老人福祉協会

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたらしさお守りします これまでの暮らしに敬意をこれからの暮らしに希望を」の運営理念のもと、暮らしなれた地域の中で、自分らしく安心した生活が送れるようにと常に考え、一人ひとりに寄り添ったケアの実践に取り組んでいる。	職員はホームの理念を理解し、その人らしさを引き出すため入居者に寄り添うケアを実践している。コミュニケーションでは尊敬の念を持って接するように日々業務に取り組まれている。また、理念の見直しについて職員で話し合う機会を定期的に設けて検討し、定例会や日々の業務の中でも職員への意識づけも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は、地域で活動している「横笛愛好会」へ入会し、町内でのイベントに参加し交流をしている。又、地域の商店や美容院、理髪店の出張サービスを利用し日常的に交流している。夏祭り前には村内の清掃活動を行っています。	毎年、ホーム主催の夏祭りを開催しており、地域の行事として根付いている。また、夏祭りの前には、入居者と共に地域の清掃活動をし、掲示板にポスターを貼るなど宣伝も行われ参加者も多い。日常的な交流があり、気軽に立ち寄れる雰囲気を作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、職員が研修で学んできた認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地域住民、地域包括支援センター、行政の職員が会議に参加し、アドバイスを頂きながらサービスの向上に活かしている。その中で今まで知らなかった地域の年間行事予定についても教えて頂き初めて参加できた行事もありました。	2か月に1回開催されており、行政職員や地域包括、地域住民や入居者、家族も参加され、積極的な意見交換が行われている。不参加者には議事録を送付するとともに、ホーム内にも掲示されるため、誰でも確認できるように工夫されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	課題が発生した場合には、都度相談し方向性の指導を頂いている。運営推進会議での関係性、雰囲気も良く相談できる場となっている。	行政担当者とは運営推進会議を通じて顔見知りになっていることから、いつでも気軽に相談できる良好な関係が築かれている。定期的に待機者及び空床の状況など、ホームの実情を伝えると共に、問題がある時には問題解決に向けて相談し指導を得るなど、行政と共に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の参加や勉強会で身体拘束について学んでいる。緊急やむをえず行動の制限が必要となった場合には、主治医の指示のもと最小限度のものとし、家族の理解と協力を得ながら速やかに解除出来るように努める方針です。カンファレンス・生活記録の中に詳細している。	研修会の参加や内部研修の開催、マニュアル作成など実施し、職員も身体拘束における弊害について理解している。ホームでは身体拘束をせずに入居者の行動観察に基づき対応する方針であり都度話し合いが行われている。管理者・職員は言葉の拘束に関しても常に念頭に置き、職員同士注意しながら拘束をしないケアに向けて取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で理解を深め、事業所の定例会や勉強会で話題としている。言葉遣いに注意する事はもちろん、入居者の尊厳を第一に、日々のケアに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターや社協の方に勉強会を依頼したり、外部研修に参加し学ぶ機会を持つ事が出来た。現在制度を利用されている方はいないが、必要に応じて活用していきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点など、話しやすい環境作りに心がけ、懇切丁寧に対応している。契約に変更があった際には、文書で通達し同意も得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	嗜好調査や普段の会話を通して、意見や要望をお聞きし、食事のメニューの改善など運営に直接活かしている。入居者、家族には運営推進会議に参加して頂いている。また、退居時には家族の思いや今後の方向性について個別に話す機会を場を設けている。	毎月、広報誌とメッセージを送付して日常の様子を伝えている。家族アンケートも実施しており、意見を吸い上げて運営に反映されている。面会の際には、担当者に関わらず職員全員が家族と交流を図り、得られた情報を職員で話し合うことにより、情報共有及び課題解決に向けられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼や、毎月の定例会で意見交換を行っている。職員全員から意見を聞き、提案のあったものは密に話し合いが行われ、運営に反映されている。新しい取り組みとして定例会の日に、昼食のお弁当を注文し代表者と職員と一緒に食事することで会話ははずみ、より話しやすい環境となっています。	毎月、定例会が開催されており、職員の意見交換が行われている。提案を基に検討が繰り返され、勤務体制等の運営面においても職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員と積極的に会話する機会を持ち、個々の状況を把握し、勤務形態や時間を考え対応している。特に職員が子供の行事に参加できるような配慮をしており、働きながら子育てができるような環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や経験に応じ研修を受講出来ている。事業所独自でBST(ビューティフルスマイルトーク)向上委員会を結成しており、定例会や勉強会で代表者と職員と一緒に学び『気づき』の向上となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度開催している、地域ケア会議に出席している。3ヶ月に一回、地域のグループホームと交流会を開催し、地域のグループホーム全体で、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネや家族と協力しながら、本人の今後の暮らし、言葉に耳を傾け、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階から、心配事や要望を聞く時間を設け、いつでも相談出来る環境、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているかを見極め、十分に話し合いし対応している。必要に応じては、各関係機関との連携を図っている。入居者の代弁者として支援内容の優先順位を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場で得意分野を引き出しながら、時には教わりながら、共に支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの情報や気づき、入居者の思いを共有し、受診の際には付き添って頂くこともあり、家族と一緒に悩み考えながらケアに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの場所の把握に努め、墓参りや地域交流を行っている。併設のデイサービスを利用している友人に会いにいたり、グループホームに友人が会いに来てくれたりしている。気軽に遊びに来て頂けるような環境づくりを心がけている。	デイサービスの利用者に知人が多いため交流が頻繁にある。手紙のやりとりをする入居者もあり、希望により外出にも対応されている。 毎年ホームでは、墓参り支援を実施しており、職員の送迎、付き添いにて外出が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団らんの場を設け、部屋に引きこもらず、「お茶の時間」を職員と過ごすなど工夫している。個々の役割を持ち、入居者同士が、支え助け合いながら生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退居の際は、退院後の転居先の情報を集め、家族に提供し相談に応じ施設申し込みを行っている。自宅へ戻ったケースでは、居宅ケアマネと連携し在宅サービス利用へと繋げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、言葉や表情などから真意を汲み取り理解し個人処遇に努めている。意思疎通が困難な方には、家族の協力を得ながらアセスメント、カンファレンスをしている。それを基に一人ひとりの思いや生きがいに繋がるものを見つけ援助している。	職員の寄り添うケアが実践されており、日々の生活の中から思いをくみ取るように努力されている。意思表示が出来ない入居者に関しては、家族からも情報を集めて、理念である「その人らしさ」の達成に向けて日々取り組んでいる。	ケアプランには入居者の意見が記載されているが、アセスメントの段階では精神面や本人の思いに関する記載がない。常に変化する入居者の思いや精神面を捉え、ケアプランに反映されることを今後に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、在宅時の担当ケアマネ、家族や関係機関より情報を集めているが、本人との会話の中からも聞き取るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に記入し、職員が共有し把握している。毎日のコミュニケーションを通し、「気づき」を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制を敷いており、入居者の状況を把握すると共に、毎月のモニタリングでは、本人の思いを一番に考え話し合い、職員皆で情報を共有している。家族の意見を取りいれながら介助計画をしている。	アセスメント、ケアプラン、カンファレンス等、全ての過程において全職員が関わりを持って実施されている。評価も毎月実施されており、変更が必要と思われる場合には、その都度話し合いが行われている。家族には原案を説明し、得られた意見をケアプランに反映して作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や支援経過、モニタリング表に個別に記入し、申し送り簿を作成し職員間で声を出しあって共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに応じて、固定観念にとらわれず、常に入居者の立場になって、いま必要な事や大切に思っている事を考え、冠婚葬祭の付き添いや送迎に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害時には、地域の方のボランティアや消防団の協力を得られ、安心した暮らしを支援している。又、地域の祭り、イベントに参加したり、慰問やボランティアの受け入れを楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する病院を受診出来るようにしているが、必要に応じては、適切な医療が受けられる病院への受診を支援している。	入居前のかかりつけ医の継続を基本としている。定期受診についてはホームで対応し、検査等が必要な場合には家族に同行を依頼している。受診後は家族に診察内容を説明し、生活記録に全て記載されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理、助言や指示をしてくれる看護師を配置している。24時間連絡を取れる体制も整っており適切な受診、看護に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も定期的に職員が伺い、早期退院に向け担当看護師、家族と情報交換している。院内の地域連携室とも連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の指針を定め、契約時には十分な説明をしている。緊急入院時等の同意書を作成している。医師や家族を協力しながら支援に取り組んでいる。	重度化した場合の対応に係る指針を作成し、ホームではどこまで対応できるかを、入居契約時に十分時間をかけて説明し同意を得ている。また、状態の変化に応じて家族に報告し、対応について検討がなされている。退居になる際には、関連機関や他施設との連絡・調整に努め、家族が不安にならないように支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、全職員が周知している。又、普通救命講習Ⅱを全員受講している。施設内にはAEDを設置し、定期的に使用方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。(夜間想定を含む)実施後は、必ず振り返りの時間を設け話し合いを行っている。地域住民の協力を得られており、停電時すぐ対応して頂いた。消防署にも消防計画を提出している。	地震、火災、また夜間を想定し、実際に通報装置を使用した避難訓練が定期的に実施されている。運営推進会議では防災に関する話し合いが行われ、地区の消防団との協力体制、地域の協力体制の確立、継続に向けて取り組まれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の他に、年間の目標を立て、一人ひとりに敬意を持って接する様、心接運動に取り組んでいる。	利用契約時には、居室の表札や写真の使用（ホーム内掲示、広報誌等）などの個人情報の使用について細かく同意が得られている。日常の声掛けにおいても、理念を振り返り職員同士で注意しながら個人を尊重した支援がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を大切にし、入居者の心身状態を観察して、ドライブや買い物、行事や交流会参加などで自己決定の場面作りを意識し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や精神状態に合わせ、本人の気持ちを尊重し個々のペースに添った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容店、美容院の出張サービスがあり、本人の希望に添ってカットしている。髪染めやパーマなどの要望にも対応している。季節にあった服装のアドバイスも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	検食表を参考に、入居者の好みや食べやすい調理方法を考えメニューに取りいれている。準備や片付けも、力量に合わせ担当制にするなどして一緒に行っている。	併設のデイサービスと同じメニューであるが、1～2品はホームで入居者と共に調理されている。定期的に嗜好調査を行い、日曜日には入居者の希望を考慮して、ホームでメニューを作成し食事を楽しまれている。行事食や誕生日等の特別食、食種（きざみ食やミキサー食など）においても個々に合わせて柔軟に支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の生活記録に、食事量や水分量を記録している。特に夏場の水分補給に関しては、スペシャルドリンクと称して、水、塩、レモン、砂糖で飲料水を作り提供している。状態によっては、きざみ食、ミキサー食、とろみ剤での対応も行っており、果物や栄養補助食品を取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。個々の力量に合わせて介助をしている。舌洗浄も行って頂けるように声掛けしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日常的に職員同士で情報交換や記録する事で、トイレ誘導のタイミングを把握できるように努めている。本人の残された力を活かし、出来る限りトイレで排泄できるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼るだけではなく、水分、食品量、乳製品や適度な運動で、自然排便を促すように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	併設している温泉での入浴を楽しみにされています。入浴前にバイタルチェックを行い、安心して入浴をして頂けるように支援している。希望に添った日に入浴出来るように調整を行っている。	2日に1回を基本とし、併設デイサービスの温泉を利用して入浴が実施されている。あらかじめ入浴日は決められているが、入居者の希望や状態により、入浴日を変えるなど柔軟に支援されている。また、各ユニットの入浴設備も希望により利用できるため、いつでも入浴できる環境と体制が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	医師の指示により眠剤を服用する場合でも、常に話し合いを行い、日中の活動量を増やす努力や、足浴、マッサージやボディタッチをする等、安心して気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書を生活記録にファイルし、いつでも確認出来るようにしている。薬の変更があった際には、注意して観察し記録に残し医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を活かして、家事作業や畑作業が行えるようにしている。本人の希望や状態別に合わせた外出先を選ぶなど、気分転換が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブなど、個々の希望や状態に合わせて外出、外食支援をしている。冠婚葬祭や、墓参りにも家族と協力しながら積極的に出掛けられるように取り組んでいる。	ホームで決められた行事の他にも、入居者の希望により買い物やドライブに出かけ、個々に合わせた外出支援が実施されている。また、天気の良い日にはホーム敷地内の散歩を実施し、庭木や花を観賞して気分転換につなげられるように取り組まれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の場合は、本人と家族の希望により、金額を決め所持して頂いている。使った金額を生活記録や小遣帳に記録している。家族には、毎月小遣いの残金を確認後、捺印をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛けられるようにしている。場合によっては、子機を使用し居室で会話出来るような配慮もしている。手紙のやり取りが出来るような援助も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広々としており、ゆったりくつろげるようになっている。全館光触媒の効果で、不快な臭いが残らないようになっている。室内の温度や湿度を管理し、快適に過ごせるように支援している。	共用空間は広いスペースが確保され、外の光が十分に入り込む造りになっていることから明るい。観葉植物や水槽などがさりげなく置かれており、調理をする音や香りも感じられ、家庭的な雰囲気である。温度・湿度の管理も細かく行われており、居心地の良い場所となるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に関しては、家具の配置を工夫しそれぞれの好みの場所で、くつろげるように配慮している。共同空間では、数個のソファを置き、気の合った人でくつろげる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や、夫、孫など家族の写真をもって来て頂き、安心して居心地よく過ごして頂いている。家具の配置も、本人が使いやすいようにと考え工夫している。	これまでの生活の中で使用してきた使い慣れたものが、個々の入居者の希望により配置されている。持ち込み品の制限はなく、できるだけ入居前の生活が継続できるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、廊下やホールには手すりを設置している。家具の位置や高さは、本人に合わせて使いやすいように工夫している。		